

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2016/11/01

米国イベントに注意

通貨ペア	基調		ページ数
ユーロ/円	➡	ドルと円に挟まれる 予想レンジ: 112.500~117.000円	2-3
ユーロ/ドル	↘	ドル要因に注意 予想レンジ: 1.07000~1.11500ドル	4-5
ポンド/円	➡	ポンド主導の上昇は期待薄 予想レンジ: 124.000~134.000円	6-7
ポンド/ドル	↘	31年ぶり安値更新も視野に 予想レンジ: 1.17000~1.27000ドル	8-9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

ユーロ/円 10月の推移

10月のユーロ/円相場は112.598~116.294円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.0%の上昇(ユーロ高・円安)となった。

米大統領選でクリントン候補の優勢が伝えられて「トランプ・リスク」が後退した事や、米経済指標を受けて年内利上げ観測が高まった事から、ドル買いが優勢となった。ユーロ/円はドル/円とユーロ/ドルの動きに挟まれて方向感が定まらなかったため、月の高安がわずか3.7円弱と、2014年4月以来の小動きとなった8月(約3.1円)に迫る結果となった。市場の関心が米大統領選に集まったため、ユーロ圏の量的緩和(QE)終了後の段階的な規模縮小(テーパリング)観測に対する反応は限られた。



四本値	
OPEN	113.859
HIGH	116.294
LOW	112.598
CLOSE	115.103

4日	一部通信社が関係者の話として「欧州中銀(ECB)は2017年3月期限の量的緩和プログラムの終了が決まれば、テーパリングが必要になる」「テーパリングの時期は経済見通し次第」と報じると、ユーロは急騰した。
6日	欧州中銀(ECB)理事会の議事録が公表され、「下サイドのリスクは残っており、インフレは上昇する確信がない」「インフレの道筋は市場の刺激策への期待を反映する」などが明らかとなるも、ユーロ相場の反応は限定的。ただ、その後コンスタンシオECB副総裁が前日のテーパリング観測報道を否定した事が伝わると、ユーロ売りが優勢となった。
11日	英金融政策委員(MPC)のサンダース委員が「ポンドの下落はBREXITだけが理由ではない」「ポンドがさらに下落しても驚きはしない」などと発言し、ポンドとユーロが対ドルで下落。米株安・原油安も重石となり、ユーロ/円は114.022円まで下落した。
20日	ECBは政策金利の据え置きを決定。その後ドラギ総裁が会見で「QE延長について本日議論しなかった」と発言すると、ユーロ買いが強まり、ユーロ/円が114.522円まで急騰。しかし「ECBはテーパリングについて議論しなかった」「量的緩和の突然の終了は算算が小さい」などと発言すると急速に売られた。なお、同総裁は「QEは必要ならば2017年3月までもしくはそれ以降まで継続」「委員会は12月にQEについて見直す予定」などとも発言している。
27日	黒田日銀総裁が「長期金利を0%に維持するために、長期国債の保有残高を年間80兆円増やす必要がなくなる可能性はある」などと発言。これを受けて円買いが優勢となり、ユーロ/円が下落するも一時的。売り一巡後は114.80円台まで反発した。なお、ドイツ銀行7-9月期決算は純利益が2.78億ユーロ赤字(予想:6.10億ユーロ赤字)と、前期の60億ユーロ赤字から転換した。
31日	前週29日に、昨年12月以降新政権が発足できなかったスペインで、少数与党ながらラホイ首相の続投が決定したが、週明けのユーロ相場の反応は薄かった。その後発表されたユーロ圏10月消費者物価指数・速報は前年比+0.5%(予想:+0.5%)と2カ月連続で伸びが加速した。また、ユーロ圏7-9月期国内総生産(GDP)・速報は、前年比+1.6%と予想(+1.6%)通りであった。

EUR/JPY

日 経 平 均

OPEN	16566.03
HIGH	17461.03
LOW	16554.83
CLOSE	17425.02

独 D A X

OPEN	10492.97
HIGH	10827.72
LOW	10349.06
CLOSE	10665.01

独2年債利回

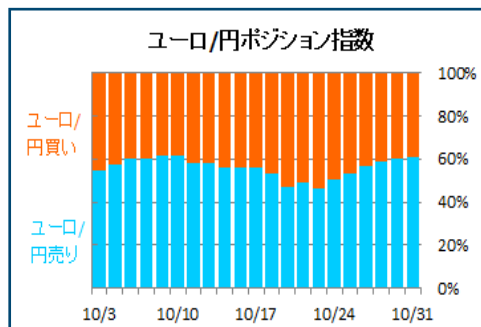
OPEN	-0.687%
HIGH	-0.607%
LOW	-0.693%
CLOSE	-0.618%

独10年債利回

OPEN	-0.121%
HIGH	0.217%
LOW	-0.125%
CLOSE	0.163%

10月のポジション動向

11月のユーロ圏の注目イベント



- ・9月ユーロ圏小売売上高(7日)
- ・7-9月期独GDP・速報値(15日)
- ・11月独/ユーロ圏ZEW景気期待指数(15日)
- ・11月独/ユーロ圏PMI製造業・速報(23日)
- ・11月独Ifo景況感指数(24日)
- ・11月独消費者物価指数・速報値(29日)
- ・11月ユーロ圏消費者物価指数・速報値(30日)

11月の見通し

月間指標カレンダー(外部リンク)

ユーロ/円相場は、前月に続き三角もち合い(6月24日安値109.197円と10月21日安値112.598円を結ぶサポートラインと、7月21日高値118.463円と9月2日高値116.363円を結ぶレジスタンスライン)のブレイクを待つ展開となりそうだ。三角もち合いはあと1か月半ほどで上下のトレンドラインが交差する事となり、相場は煮詰まりつつある。こうした中、ファンダメンタルズを伴ってもち合いをブレイクするようならば、ブレイクした方向に動きが出る可能性がある。ただし、先月に続きドルが主役の相場展開となるようならば、もち合いブレイクは来月に持ち越しとなる事も考えられる。

12月4日に、イタリアで憲法改正を問う国民投票が行われる。事実上のレンティ政権の信任投票であり、不信任との見方が強まればEU懐疑派を勢いづけることになりかねず、ユーロ相場のリスク要因となる事も考えられる。本稿執筆時点での影響は限定的であるが、今後の推移を見守る必要があるだろう。(川畑)

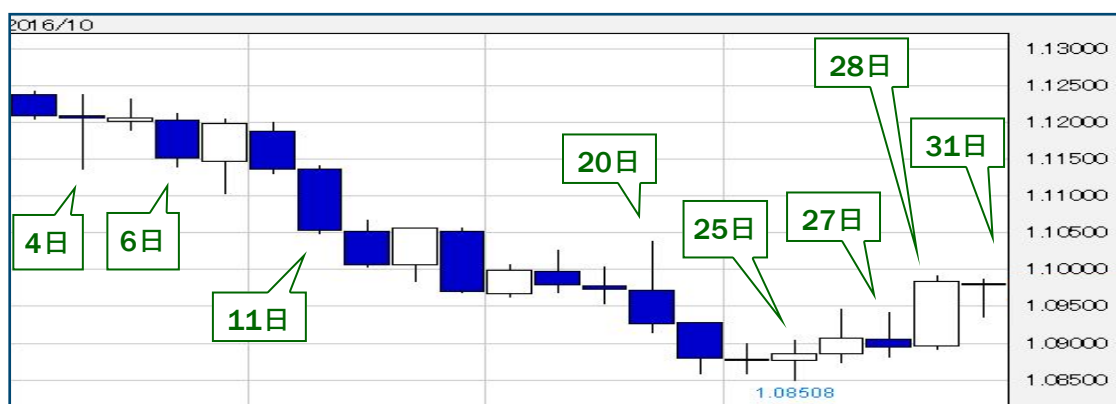
(予想レンジ:112.500~117.000円)

ユーロ/ドル 10月の推移

EUR/USD

10月のユーロ/ドル相場は1.08508～1.12424ドルのレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.3%の下落(ユーロ安・ドル高)となった。

米大統領選でクリントン候補の優勢が伝えられて「トランプ・リスク」が後退した事や、米経済指標を受けて年内利上げ観測が高まった事から、ドル買いが優勢となり、ユーロ/ドルは下落。英国のEU離脱(ブレグジット)の影響を懸念したポンド/ドルの下げ(ポンド売り・ドル買い)や、欧州中銀(ECB)のドラギ総裁のテーパリング否定発言も重石となり、25日に3月以来となる1.08508ドルまで下落した。



四本値

OPEN	1.12383
HIGH	1.12424
LOW	1.08508
CLOSE	1.09808

4日	一部通信社が関係者の話として「欧州中銀(ECB)は2017年3月期限の量的緩和プログラムの終了が決まれば、テーパリングが必要になる」「テーパリングの時期は経済見通し次第」と報じると、ユーロが一時買われた。
6日	ECB理事会の議事録が公表され、「下サイドのリスクは残っており、インフレは上昇する確信がない」「インフレの道筋は市場の刺激策への期待を反映する」などが明らかとなるも、ユーロ相場の反応は限定的。ただ、その後コンスタンシオECB副総裁が前日のテーパリング観測報道を否定した事が伝わると、ユーロ売りが優勢となった。
11日	英金融政策委員(MPC)のサンダース委員が「ポンドの下落はブレグジットだけが理由ではない」「ポンドがさらに下落しても驚きはしない」などと発言し、ポンドとユーロが対ドルで下落。ユーロ/ドルは1.1000ドル前後まで下落した。
20日	ECBは政策金利の据え置きを決定。その後ドラギ総裁が会見で「QE延長について本日議論しなかった」と発言すると、ユーロ買いが強まり、ユーロ/ドルが1.10396ドルまで急騰。しかし「ECBはテーパリングについて議論しなかった」「量的緩和の突然の終了は公算が小さい」などと発言すると急速に売られた。なお、同総裁は「QEは必要ならば2017年3月までもしくはそれ以降まで継続」「委員会は12月にQEについて見直す予定」などとも発言している。
25日	独10月IFO景況感指数が予想(109.6)を上回る110.5となり、ユーロは一時上昇。その後、ポンド/ドル相場でもドル買いが強まった影響を受けて1.08508ドルまで下落するも一時的となり、ドラギECB総裁が「金融政策の副作用を意識している」「非常に低い金利はコストが掛からないというわけではない」「過度に長期間、このような低金利を続けるのは良くない」などと発言すると、1.0900ドル前後まで切り返した。
27日	ドイツ銀行7-9月期決算は純利益が2.78億ユーロ赤字(予想:6.10億ユーロ赤字)と、前期の60億ユーロ赤字から転換した。
28日	米連邦捜査局(FBI)が米大統領選挙の民主党候補のクリントン氏のメール問題について捜査を再開した事が報じられると、選挙戦の不透明感からドル売りが優勢となり、ユーロ/ドルは1.09915ドルまで上昇した。
31日	前週29日にスペインで、少数与党ながらラホイ首相の続投が決定したが、週明けのユーロ相場の反応は薄かった。その後発表されたユーロ圏10月消費者物価指数・速報が前年比+0.5%と事前予想通りとなり、2カ月連続で上昇が加速した。また、ユーロ圏7-9月期国内総生産(GDP)・速報は、前年比+1.6%と事前予想通りとなった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

NYダウ平均

OPEN	18279.60
HIGH	18399.96
LOW	17959.95
CLOSE	18142.42

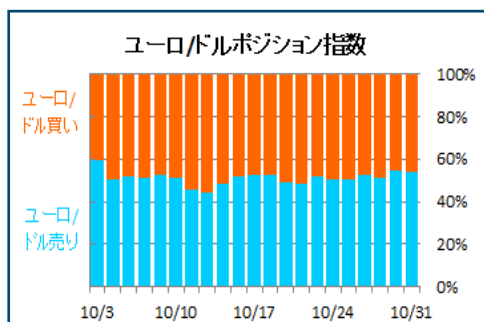
独10年債利回

OPEN	-0.121%
HIGH	0.217%
LOW	-0.125%
CLOSE	0.163%

米10年債利回

OPEN	1.5979%
HIGH	1.8771%
LOW	1.5910%
CLOSE	1.8255%

10月のポジション動向



11月のユーロ圏の注目イベント

- ・9月ユーロ圏小売売上高(7日)
- ・7-9月期独GDP・速報値(15日)
- ・11月独/ユーロ圏ZEW景気期待指数(15日)
- ・11月独/ユーロ圏PMI製造業・速報(23日)
- ・11月独Ifo景況感指数(24日)
- ・11月独消費者物価指数・速報値(29日)
- ・11月ユーロ圏消費者物価指数・速報値(30日)

11月の見通し

月間指標カレンダー(外部リンク)

11月も引き続き、ドルの動きに注意したい。米大統領選挙(8日)について、本稿執筆時点ではクリントン・トランプ両候補どちらも優勢とは言い切れない状態である。先月の動きを見る限り、クリントン候補が勝利となればドル買いが強まる公算が大きく、ユーロ/ドル相場に下押し圧力が掛かりそうだ。反対にトランプ候補が勝利となれば、市場はドル売りで反応する可能性が高い。大統領が決定した後は、米経済指標や要人発言を確認しつつ、米年内利上げの可能性が一段と高まるかに注目したい。

テクニカル面では、週足と日足で三役逆転が点灯しており、下押し圧力が強まりやすいと見る。目先の下値目処として先月25日安値(1.08508ドル)や3月安値(1.08207ドル)が挙げられるが、これらを割ると1月に付けた年初来安値(1.07097ドル)更新を目指した一段安もあるだろう。

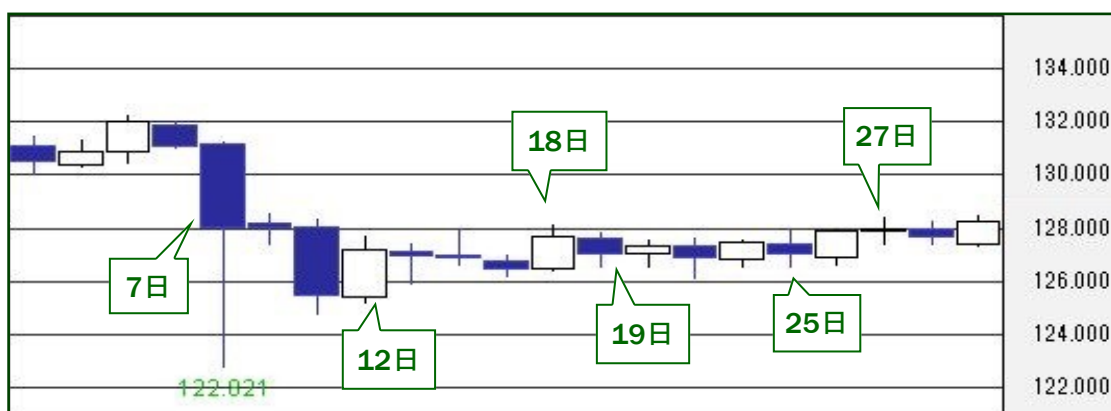
なお、低インフレの元凶であった原油相場について、先月は年初来高値を更新している。来月のECB理事会を前にインフレの伸び加速が確認されれば、テーパリング観測が高まる事も考えられる。ECBの次の一手を読む上で、30日のユーロ圏11月消費者物価指数・速報値に注目したい。(川畑)

(予想レンジ: 1.07000~1.11500ドル)

GBP/JPY

ポンド/円 10月の推移

10月のポンド/円相場は122.821~132.231円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.5%の下落(ポンド安・円高)となった。7日朝に起きた「フラッシュ・クラッシュ」と、メイ首相が英国を「ハード・ブレグジット」へ誘導しているとの懸念によってポンド安が進行。その後は、「ハード・ブレグジット」への懸念がやや緩和したほか、英中銀(BOE)による追加緩和観測が後退する中でポンドに買戻しが入ったが、前半の下げを埋めるには至らなかった。



四本値	
OPEN	131.117
HIGH	132.231
LOW	122.821
CLOSE	128.319

7日	取引に厚みがない日本時間午前8時過ぎという時間帯にポンドが突如として急落。市場には「誤発注」との見方や、英FT紙がオランド仏大統領の見解として「英国はEU離脱の報いを受ける必要がある」と報じた事を蒸し返したとの見方が出たが、ストップロス巻き込みながら数分間のうちに6%以上もの大幅な下落を演じた直接的な原因はなお不明。
12日	「メイ首相は11日遅く、野党の動議を事実上受け入れる修正案を示した」「メイ首相に交渉の余地を残す形で、議院にEU離脱プロセスを巡る採決を容認する決定を行った」などとする報道が伝わるとポンド買いが活発化。市場ではメイ首相が経済的な打撃をいとわずに政治優先でEU離脱に突き進む「ハード・ブレグジット(強硬な離脱)」を志向しているとの懸念が強まっていたが、報道をきっかけに警戒がやや緩んだ事でポンドの急騰につながった。
18日	英国政府の弁護人が「EU離脱をめぐるいかなる合意も議会による批准が必要となる公算が非常に大きい」との認識を示したことを受けてポンドが上昇。議会多数派は「ハード・ブレグジット」に懸念を抱いているため、弁護人の発言によってそうした懸念がやや和らいだ。なお、この日に発表された英9月消費者物価指数は前年比+1.0%と予想(+0.9%)を上回り、前月(+0.6%)から伸びが加速した。
19日	英9月雇用統計は、失業者数が0.07万人増(予想0.32万人増)、失業率は2.3%(同2.2%)とマチマチの結果となった。その後、「独政府はブレグジットについて裏口交渉はしない」とする独政府筋の話が報じられたほか、一部通信社が「日銀は、次回会合では追加緩和見送る公算」と伝えた事からポンド売り・円買いが活発化した。
25日	カーニー英中銀(BOE)総裁が英上院で議会証言に立ち「量的緩和(QE)の副作用を意識している」「一段の緩和策が必要な場合も、QE拡大だけには頼らず」などと述べた上で、11月3日の金融政策委員会(MPC)における政策判断で「間違いなく最近のポンド安を考慮に入れる」とした。これを受けてポンド高が進行。
27日	英7-9月期国内総生産(GDP)速報は前期比+0.5%、前年比+2.3%となり予想(+0.3%、+2.1%)を上回った。欧州連合(EU)からの離脱決定の影響が初めて反映されたGDPが好結果となった事からBOEによる追加緩和観測が後退。英長期金利の上昇とともに一時ポンド高に振れた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP/JPY

日経平均

OPEN	16566.03
HIGH	17461.03
LOW	16554.83
CLOSE	17425.02

FTSE100

OPEN	6899.33
HIGH	7129.83
LOW	6898.09
CLOSE	6954.22

英2年債利回

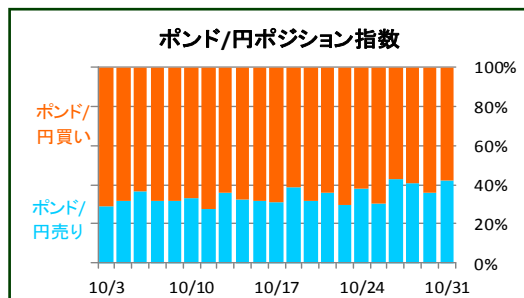
OPEN	0.112%
HIGH	0.336%
LOW	0.079%
CLOSE	0.263%

英10年債利

OPEN	0.753%
HIGH	1.312%
LOW	0.711%
CLOSE	1.245%

10月のポジション動向

11月の英国の注目材料



- ・10月英製造業PMI(1日)
- ・10月英建設業PMI(2日)
- ・10月英サービス業PMI(3日)
- ・BOE政策金利発表(3日)
- ・BOE議事録(3日)
- ・BOEインフレ報告(3日)
- ・カーニーBOE総裁会見(3日)
- ・9月英鉱工業生産(8日)
- ・9月英貿易収支(9日)
- ・10月英消費者物価指数(15日)
- ・10月英生産者物価指数(15日)
- ・10月英雇用統計(16日)
- ・10月英小売売上高(17日)
- ・7-9月期英GDP・改定値(25日)

11月の見通し

月間指標カレンダー(外部リンク)

1日の本稿執筆時点で、日銀は金融政策の現状維持を発表したが、もとより緩和期待はなかったため市場の反応は限定的であった。3日の英中銀(BOE)金融政策委員会(MPC)も同様の展開となるかもしれない。以前は、欧州連合(EU)離脱の影響を重く見て利下げを見込む向きが多かったが、離脱決定後も予想以上に堅調な英経済やポンド安(によるインフレ懸念)などから、今では追加緩和を予想する声はほとんどなくなっている。某通信社のエコノミスト予想集計でも利下げ予想は58人中4人に過ぎない。BOEが追加緩和を見送っても失望のポンド買いは限定的と見られる。インフレ報告の中身やカーニーBOE総裁の会見で一時的に動意付く事はあっても、上昇トレンドを形成するきっかけにはなりにくいだろう。

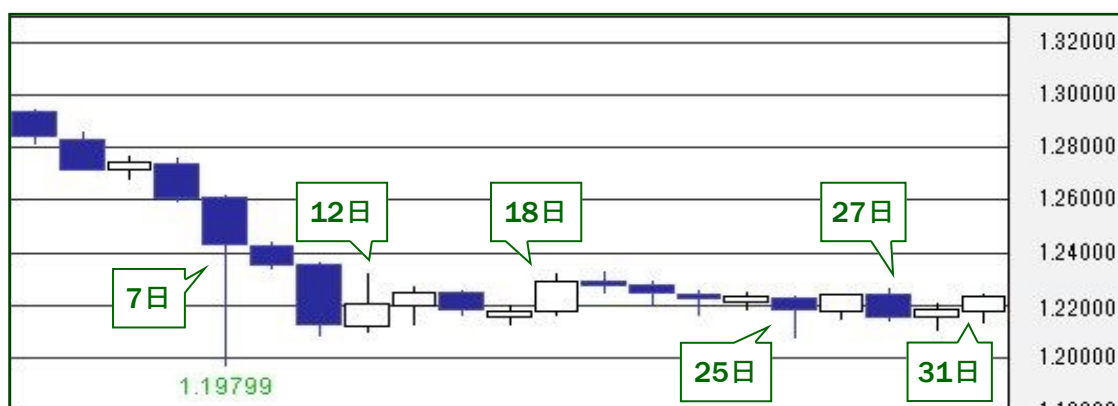
11月のポンド/円相場は、円安主導で上昇する事は考えられるが、来年3月までに始まるEUとの離脱交渉の難航が予想される点や、将来的なBOEの追加緩和観測を考慮すれば、ポンド自身の材料で大きく上昇するとは考えにくい。132円台の75日移動平均線や134円台の100日移動平均線付近が戻りのメドとなりそうだ。(神田)

(予想レンジ: 124.000~134.000円)

ポンド/ドル 10月の推移

GBP/USD

10月のポンド/ドル相場は、1.19799～1.29459ドルのレンジで推移。月間の終値ベースでは約5.7%の大幅下落(ポンド安・ドル高)となった。7日の「フラッシュ・クラッシュ」と呼ばれる崩落現象で31年ぶりの1.20ドル割れを示現した。その後もメイ首相が英国を「ハード・ブレグジット」へ誘導しているとの懸念によってポンド安が進行。中旬以降は英中銀(BOE)の追加緩和観測が萎み下げ渋ったが、米国の利上げ期待が高まる中でドル高が進行したためポンドが伸び悩んだ。



四本値

OPEN	1.29391
HIGH	1.29459
LOW	1.19799
CLOSE	1.22413

7日	取引に厚みがない日本時間午前8時過ぎという時間帯にポンドが突如として急落。市場には「誤発注」との見方や、英FT紙がオランダ仏大統領の見解として「英国はEU離脱の報いを受ける必要がある」と報じた事を蒸し返したとの見方が出ているが、ストップロスを巻き込みながら数分間のうちに6%以上もの大幅な下落を演じた直接的な原因はなお不明。
12日	「メイ首相は11日遅く、野党の動議を事実上受け入れる修正案を示した」「メイ首相に交渉の余地を残す形で、議会でEU離脱プロセスを巡る採決を容認する決定を行った」などとする報道が伝わるとポンド買いが活発化。市場ではメイ首相が経済的な打撃をいとわずに政治優先でEU離脱に突き進む「ハード・ブレグジット(強硬な離脱)」を志向しているとの懸念が強まっていたが、報道をきっかけに警戒がやや緩んだことがポンドの急騰につながった。
18日	英国政府の弁護士が「EU離脱をめぐるいかなる合意も議会による批准が必要となる公算が非常に大きい」との認識を示したことを受けてポンドが上昇。議会多数派は「ハード・ブレグジット」に懸念を抱いているため、弁護士の発言によってそうした懸念がやや和らいだ。なお、この日に発表された英9月消費者物価指数は前年比+1.0%と予想(+0.9%)を上回り、前月(+0.6%)から伸びが加速した。
25日	カーニー英中銀(BOE)総裁が英上院で議会証言に立ち「量的緩和(QE)の副作用を意識している」「一段の緩和策が必要な場合も、QE拡大だけには頼らず」などと述べた上で、11月3日の金融政策委員会(MPC)における政策判断で「間違いなく最近のポンド安を考慮に入れる」とした。これを受けてポンド高が進行。
27日	英7-9月期国内総生産(GDP)速報は前期比+0.5%、前年比+2.3%となり予想(+0.3%、+2.1%)を上回った。欧州連合(EU)からの離脱決定が初めて反映されたGDPが好結果となった事からBOEによる追加緩和観測が後退。英長期金利の上昇とともに一時ポンド高に振れたが、その後は原油高や利上げ観測などを背景に米長期金利が上昇したためドル高に転じ失速した。
31日	カーニーBOE総裁が「ブレグジット期間は在職する必要」と述べて、2019年6月末まで総裁職にとどまる見通しを示した。一部に総裁辞任の噂があった事から、この発言を受けてポンドが買われる場面があった。

GBP/USD

NYダウ平均

OPEN	18279.60
HIGH	18399.96
LOW	17959.95
CLOSE	18142.42

米10年債利回

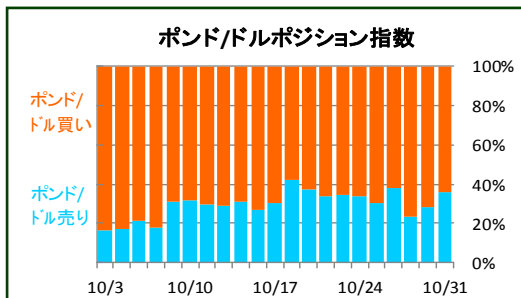
OPEN	1.5979%
HIGH	1.8771%
LOW	1.5910%
CLOSE	1.8255%

英10年債利回

OPEN	0.753%
HIGH	1.312%
LOW	0.711%
CLOSE	1.245%

10月のポジション動向

11月の英国の注目材料



- ・10月英製造業PMI(1日)
- ・10月英建設業PMI(2日)
- ・10月英サービス業PMI(3日)
- ・BOE政策金利発表(3日)
- ・BOE議事録(3日)
- ・BOEインフレ報告(3日)
- ・カーニーBOE総裁会見(3日)
- ・9月英鉱工業生産(8日)
- ・9月英貿易収支(9日)
- ・10月英消費者物価指数(15日)
- ・10月英生産者物価指数(15日)
- ・10月英雇用統計(16日)
- ・10月英小売売上高(17日)
- ・7-9月期英GDP・改定値(25日)

11月の見通し

月間指標カレンダー(外部リンク)

11月のユーロ/ドル相場は、ドル高の持続性が焦点となりそうだ。3日の「スーパーサーズデー」をめぐる英中銀(BOE)の動きは注目されようが、追加緩和観測が著しく後退する中では、ポンド主導の動きには繋がりにくいと考えられる。

一方、米国では2日に連邦公開市場委員会(FOMC)、4日に10月雇用統計、8日に米大統領選の投開票(結果は日本時間9日以降)と、重要イベントが11月前半に集中している。FOMCが、米経済の先行き見通しに自信を示し、雇用統計で雇用情勢の好調を確認、その後クリントン大統領誕生という、最も蓋然性が高いメインシナリオに沿った結果となれば12月利上げの確度が高まる。そうした流れの中で、ドル高基調が続けば、ポンド/ドル相場に下落圧力がかかる事になるだろう。10月7日の「フラッシュ・クラッシュ」以降は、1.20ドル台で下げ渋る様子も見られるが、もしこの水準を下抜けてしまえば31年ぶり安値を再び更新する可能性が高まり、チャート上に下値のメドが見当たらない「リミットレス」の世界に突入する事になる。(神田)

(予想レンジ: 1.17000~1.27000ドル)